

令和五年度 入学試験（一般 第二回）問題（国語）

【】 1 次の文章を読んで、後の【】に答えなさい。

感覺人間である私には、日々の生に住み心地、居心地、着心地のよさがずいぶん大きな【ア】を持つている。

ところで、住み心地、居心地、着心地、寝心地とはいうが、食べ心地などとは言わない。食とか性とか、生々しく直接的で迫力があつて、生存に挑戦し、そしてはかなく消え去るものは「心地」という言葉に縁がない。

何かにつけがつがつしていった青年時代にもベッドの寝心地のよさは欠かせなかつた。好みの本とともに布団の中にもぐずり込んで、やがて布団と私の肌との境いが溶けてゆくころには孤独であつても甘い眠りが訪れてきた。「心地」とは、部屋にせよ、着物にせよ、寝台にせよ、「フィット・イン」するものである。ぴつたりはまりながら、しかし、ネジとネジ穴のような窮屈な嵌まり込みではなく、はまつている私には最大の自由と落ちつきとが感じられ、いるべきところにあるべきありようでいるという感覺。対象に対立し、働きかけ、挑む時の緊張からもつとも遠い状態、対象以前的な、拘束なき庇護の状態である。

スリルも対象のない、それ以前の混沌であるが、これはスリルと正反対である。瞬間を生命とするのがスリルなら、居心地は無時間である。時間以前の状態である。

子宮の中は実際にはそれほど居心地がよくなくて、私たちは胎児の時からけつこう【a】を食らい、脅え、驚かされているらしいが、理想化され、夢見られている「子宮」は「居心地のよさ」の理想、「フィット・イン」そのものである。

「死」を一種の胎内回帰とするのは、死の【*】さを和らげようとする人間の夢想である。「死」を一種の「フィット・イン」と夢想し、われわれは「安らかに眠ること」を死者のために祈る。「小さい死」である眠り心地のよさは翌朝の蘇りに欠かせない。

私の友人に、年に一度、飛鳥の「石舞台」の中にはいることが必要な女性がいる。それは蘇りの【①】で、あの中は特別に「空気が濃い」のだそうである。

「空気が濃い」とはよく言ったものだ。居心地は「風」のように、目に見えず、とらえがたいものである。服地について「風合い」ということばがあるが、「風合いのよさ」があつて初めて着心地のよさがある。部屋にも、家にも、公園の木立にも、その「風合い」があるだろう。しつとりと私たちを包みながら濶まずひそかに動いている何かが。

家や庭や公園のほうも、たえず人間が出入りしなければ速やかに朽ちる。しばらくはいらないと私の書斎の空気がささくれだつ。老母が毎日見回っていた庭は死後一月もたたないうちに荒れ地じみた。タクシードの老運転士の話では、名車といわれるクルマも毎朝一時間動かさないと駄目になる。熱帯魚も、毎日飽きずに眺めていてやらないと色が【b】くる。多くの事物は、その「居心地のよさ」を保つために環境としての人間を必要とし、人間を頼みにしているようだ。きっと「居心地」のよくさせる人間とそうでない人間がいるのだろう。

二十年ほど前の『暮しの手帖』によれば、建築家の清家清氏は、邸宅にゆくと真先に屋内の植物を見るそうである。うまく育つていなければ、建てた建築家がよくないか、住む人の気持ちがすさんでいるかだと氏は言う。私も往診の時、ひそかに観葉植物かペットを見る癖がある。

（中井久夫『居心地』）

【1】 傍線部ⒶⒷの漢字の正しい読みを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問1 2】

- | | | | | |
|-----------|---------|-----------|---------|-----------|
| 1 Ⓐ ①よみがえ | 2 Ⓑ ②そし | 3 Ⓒ ③ふりかえ | 4 Ⓓ ④うね | 5 Ⓕ ⑤たちなお |
| 2 Ⓑ ①やす | 3 Ⓒ ②ひる | 4 Ⓓ ③たく | 5 Ⓕ ④よど | 6 Ⓗ ⑤うと |

【2】空欄①に該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問3】

- ③⑦ ①比率
②重点 ③比重
④重心 ⑤割合
④① ①祭典 ②式典 ③祭祀
④典礼 ⑤儀式

【3】傍線部「を食らい」の前に置く(a)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問5】

- ①抜き打ち ②夜討ち ③不意打ち ④闇討ち ⑤肘打ち

【4】傍線部「色が」に続く(b)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問6】

- ①くすんで ②かすれて ③あせて ④かすんで ⑤うすれて

【5】空欄*に該当する語を、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問7】

- ①非合理 ②不可避 ③不合理 ④理不尽 ⑤不条理

【6】筆者は波線部で、読者に何を伝えたかったのか。筆者の思いとしてふさわしいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問8】

- ①患者がどんな環境にあるのか、往診の時にこそその全てがわかるので集中しなければ、という思い。
②患者の心を見つめるには、居住環境などの考察が大切であることを肝に銘じている、という思い。
③居住環境の質が、原因究明・治療方針決定に大きく影響することを再認識せねば、という思い。
④観葉植物やペットの状況に、患者の心が浮き彫りになることもあるので注意したい、という思い。
⑤居住環境に注意を払うことで、そこから得る思いを患者と共有でき、極めて有効、という思い。

【7】彼女の活躍は、もはや異次元のそれ、と評さずにはいられない。【解答欄は問9】

- ⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【8】これこそまさに、父のジ世の句と言うべきだ。【解答欄は問10】

- ⑨ ①元 ②限 ③現 ④言 ⑤幻

【9】少女の話しかにより、その母親の面カゲが鮮明になった。【解答欄は問11】

- ⑩ ①時 ②自 ③示 ④持 ⑤辞

【10】皆様のご健康を、心よりお祈りしております。【解答欄は問12】

- ⑪ ①蔭 ②影 ③翳 ④陰 ⑤景

【11】彼があれこれ御立派なのは、いつものことだ。【解答欄は問13】

- ⑫ ①期 ②記 ③氣 ④祈 ⑤紀

- ⑬ ①卓 ②机 ③託 ④拓 ⑤沢

三次の【12】～【16】の作者と作品の組み合わせで、正しくないものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問【14】】

- ①尾崎紅葉『金色夜叉』
- ②樋口一葉『にごりえ』
- ③有島武郎『カインの末裔』
- ④永井荷風『夫婦善哉』
- ⑤田村俊子『木乃伊の口紅』

【解答欄は問【15】】

- ①山本文緒『自転しながら公転する』
- ②藤田宜永『愛の領分』
- ③田辺聖子『感傷旅行』
- ④眉村卓『なぞの転校生』
- ⑤宇江佐真理『恋忘れ草』

【解答欄は問【16】】

- ①馬場のぼる『11ぴきのねこ』
- ②松谷みよ子『龍の子太郎』
- ③宮沢賢治『おじいさんのランプ』
- ④石井桃子『ノンちゃん雲に乗る』
- ⑤古田足日『おしいれのぼうけん』

【解答欄は問【17】】

- ①フョードル・ドストエフスキイ『罪と罰』
- ②マルセル・ブルースト『赤と黒』
- ③チャールズ・ディケンズ『デイヴィッド・コパフィールド』
- ④フランツ・カフカ『城』
- ⑤ハーマン・メルヴィル『白鯨』

【解答欄は問【18】】

- ①F・H・バーネット『メアリー・ポピンズ』
- ②サマセット・モーム『月と六ペンス』
- ③ジーン・ウェブスター『あしながらおじさん』
- ④ジュール・ヴェルヌ『十五少年漂流記』
- ⑤ルイス・キャロル『ふしぎの国のアリス』

【16】

【18】

【15】

【17】

【14】

【16】

【13】

【15】

【12】

【14】

【12】

四 次の文章を読んで、後の【17】～【21】に答えなさい。

突然、ミもフタもなくいつてしまふけれど、私がこの世の中はやっぱり男の人の価値観がスタンダードで、子どもの価値観はグリコのオマケみたいなもんなんだなあと実感したのは、漫画のせいだった。

というのは、今はフツーの“好き”だけれど、かつて私は漫画が“大好き”だった。この場合の漫画は、もちろん少女漫画である。私は少女だったので、読む漫画はすべて少女漫画で、この世に少年漫画があるらしいことは知っていても、それは漫画ではなくて“少年漫画”というものであった。ときどき男イトコの本棚にズラリと並んだ『愛と誠』（梶原一騎原作・ながやす巧作画・講談社コミックス）なんか読んで、「すごい世界じゃん。男の子って、わっかんないよなー」とかタメ息ついていた。漫画＝少女漫画という図式は、私が少女であるかぎり、スタンダードでノーマルな世界認識であつたと思う。

ところが十数年ほど前、私が大学生のころ、マスコミが少女漫画をブームのように扱いだして、そのときのマスコミの目つき口ぶりが、なんか檻のむこうのパンダを見るような感じだったことに、ショックをうけてしまった。私にとっては漫画＝少女漫画が現実だったのに、ほんとの現実——すくなくとも新聞や雑誌＝世間さまが漫画というときは、それは少年漫画や青年誌の、つまり男（の子）用の漫画のことを漫画というのであって、女の子が読む漫画をいうときは、キチンと“少女漫画”といわなければならぬということに、いやおうなく気づかされたわけだった。

ただの“漫画”といえば少女漫画のことであった私の世界認識は、そこでいっきにグラッときて、「ああ、世の中の命名もなにもかも、すべては男の人が中心だったのね。仲間にいれてもらうときは、少女とか、そういうものをアタマにつけて、特殊化しないとダメなのね」という現実に目覚めたのだった。

そしてアタマに少女がつくと、漫画は漫画でも特別なものになってしまふらしくて、花が飛ぶとか、目の星がどうたらとか、女の子に都合のいい男の子像がどうしたとか、いろんなことをいわれて、内心では「じゃあ、少年漫画の、あの殴られても殴られても、なぜか次回にはピンシャンして出てくる【*】のなさは、どうなるの」「少年漫画にでてくる女の子も、フツー、いないぞう。転ぶとき、わざわざお尻むきだして転ぶかよ」とか、いろんな不満はあつたのだけれど、それは大事の前の小事、もっとショッキングだったのは“少女の感性”というコトバの出現だった。【⑦】友達のあいだで、「これっていい感じだよね」「好きだー」ですんでいたものが“少女の感性”と名づけられて、“少女幻想”とかいう親戚語もチラホラして、【①】特別のことになるのだった。

じゃあ、少年漫画が“少年の感性”というコトバで語られて、“少年幻想”といわれるかというと、そうでもないところからして、【⑦】少年とか男というのがスタンダードでノーマルで、少女や女はスペシャルで、アブということになるのだった。

世の中には特別扱いされるのが好きな人もいるから、少女漫画に特別の意味あいをもたせることに大賛成の人もいるだろうけれど、私は戦後民主主義で育ったフツーの少女だったから、特別扱いしなくていい、フツーに平等等に扱うべきじyanと思っていて、少女漫画を特別な【**】のようにもてはやす当時の文化人のコメントなんかにも、（実は）もうつとしていた。すごく褒めてくれててもね。

私の愛する少女漫画が、社会的に認知される（大人の男性、とりわけ文化人に話題にしていただく）という代價とひきかえにヒヨーロンされる対象となつて十数年、それは今にいたるもレンメンとひきつがれ、少女漫画を評論するコトバ（少女幻想なんて、まだ生きてるぞう）はあっても、少女漫画を愛するコトバはいまだ流通していない。だけど、やっぱり愛がなくっちゃと思うのである。

せめて漫画評論するなんなら、感性とか幻想とか、そういう男性が理解できない領域にむけて発する男性用のファンタジー用語を捨てて、少年漫画を語るのと同じコトバで、少女漫画を語つてほしいと思うのである。あるいは少女漫画を語るのと同じコトバで、少年漫画も語れなくちゃいけないと思うのである。それは悪しき平等主義ではなくて、評論の場に、ダブルスタンダードを持ちこまないという最低のルールの問題だと思うのである。

では、少年漫画と少女漫画を同一線上で、おなじコトバで語ることは可能か。可能なんじやないか——ということを、夏目房之介さんの『手塚治虫はどこにいる』（ちくまライブラリー）『夏目房之介の漫画学』（ちくま文庫）

という本は期待させてくれるのだった。彼は、漫画は線とコマだという。そこに徹底的にこだわって手塚治虫を評論しているのが『手塚治虫はどこにいる』であり、その本にいたるシユウサクのかずかずが『夏目房之介の漫画学』で、べつに少女漫画について何かを評論しているわけではない。けれど「描線」と「コマ」という少年漫画も少女漫画もひとしく述べ話になるモノにこだわることで、彼はあきらかに、これまで少女漫画を語るときに野放図に、だらしなく使われてきた〈感性〉だの〈幻想〉だのという男性のためのファンタジー用語をこえた漫画評論の方法に王手をかけている。彼は漫画を“愛して”いるので、漫画を語るための、オリジナルな言葉と方法をなんとかしたいと模索したあげくに、漫画評論の場のダブルスタンダードを越えちゃっているのだ（きっと、ご本人は意識していないと思うけど）。どういうことか知りたいときは、『夏目房之介の漫画学』の山岸涼子さんの描線の模写を見てください。私はこんなふうにして、愛をもって（少女）漫画を語ってほしかったんです、十数年前にも。

（水室冴子『愛がなくっちゃ』）

- 【17】 空欄⑦～⑩に該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問19～21】
①もちろん ②それまで ③だいたい ④かねがね ⑤ほほほほ
①なにしろ ②ほどなく ③なにやら ④まもなく ⑤そのうち
①どんどん ②とうとう ③ますます ④ついには ⑤いよいよ

【18】 二重傍線部a・bの漢字として正しいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

- 【22】 a ①連面 ②連綿 ③連麺 ④連免 ⑤連纏
b ①習作 ②周作 ③修作 ④秀作 ⑤收作

【19】 空欄*と*に該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

- 【24】 * ①ダイヴァーシティ ②サステナビリティ ③リアリティ ④プライオリティ ⑤ユーティリティ
【25】 ** ①カテゴリー ②グループ ③スペック ④ジャンル ⑤アイテム

【20】 作者・氷室冴子の作品として正しくないものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

- 【26】 ①『さようならアルカン』 ②『クララ白書』 ③『なんて素敵にジャパネスク』
④『海がきこえる』 ⑤『開幕ベルは華やかに』

【21】 筆者は波線部で、読者に何を伝えたかったのか。五十字で述べなさい。【解答は記述解答用紙問27】

【27】 記述解答用紙へ